

耐災害 ICT 研究シンポジウム2021

～耐災害 ICT からレジリエント ICT に向けて～

2021年は東日本大震災から10年、また震災を契機として災害に強い情報通信の実現に向け発足した耐災害 ICT 研究センターが新たな中長期計画を迎える節目の年となります。

近年、西日本集中豪雨や令和元年台風など自然災害の大規模化、激甚化、長期化が目立つ一方、情報通信ネットワークに対する安全・信頼性が改めて問われると同時に社会活動全般にその影響が非常に大きいことが再認識されています。さらに、様々なりモートソリューションやソーシャルネットワークサービスの普及までネットワークの活用が社会経済や生活の一部として定着し、耐災害 ICT 研究も新たな活用者像への対応が求められるようなことが考えられます。

今回のシンポジウムでは、耐災害 ICT 研究の経過と将来展望そして新たな展開を関係者から講演いただきます。

2021年3月24日(水)13時～17時

本シンポジウムはオンライン形式で開催します。

参加費
無料

定員
500 名

【招待講演】15:35～

ICT の新型コロナウイルス感染症対策への貢献について

京都大学大学院医学研究科（医療情報学）教授 黒田知宏



【特別講演 1】15:00～

電力と情報通信のネットワーク基盤融合による超スマート社会の創出に向けて

東北大学 電気通信研究所 教授 尾辻泰一
電気通信研究機構 副機構長



【特別講演 2】16:10～

災害対応を支援する SNS 情報分析における AI

NICT データ駆動知能システム研究センター 上席研究員 大竹清敬



※ 講演概要等は別紙

お申し込み方法

本シンポジウムはオンライン形式で開催します。事前登録によりご参加いただけます。下記ウェブサイトからお申し込みください。後日、お申込みのメールアドレスに接続方法をご案内いたします。申し込み締切 3 月 19 日（金）まで。

<https://www.nict.go.jp/resil/symposium2021/>

なお、申込が定員になり次第、受付終了となります。



主催

国立研究開発法人情報通信研究機構、総務省東北総合通信局、
国立大学法人東北大学、耐災害 ICT 研究協議会

お問い合わせ

国立研究開発法人情報通信研究機構
耐災害 ICT 研究センター
TEL : 022-713-7511
E-mail : resil-sympo@ml.nict.go.jp



～プログラム～

○ 開会

13:00 開会挨拶

徳田英幸

国立研究開発法人情報通信研究機構理事長



田尻信行

総務省東北総合通信局長



原 信義

国立大学法人東北大学理事・副学長（社会連携・震災復興推進担当）



13:15 【基調講演】

耐災害 I C T 研究のこれまでと今後について

鈴木陽一

国立研究開発法人情報通信研究機構耐災害 I C T 研究センター長



○ 講演 1 大規模化、長期化、激甚化する自然災害と ICT について （質疑応答、全 5 分）

13:45 災害時における通信確保に向けた総務省の取組について

恩賀 一

総務省総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課安全・信頼性対策室長



14:15 電気通信設備の安全信頼性対策の強化に向けた取り組みについて（仮）

佐藤勇悦

東日本電信電話株式会社宮城事業部設備部サービス運営部門災害対策室長



<14:50～15:00 休憩>

○ 講演 2 耐災害 ICT 研究における新たな展開について （質疑応答、各 5 分）

15:00 【特別講演 1】

電力と情報通信のネットワーク基盤融合による超スマート
社会の創出に向けて

尾辻泰一

国立大学法人東北大学電気通信研究所、電気通信研究機構 教授、副機構長



15:35 【招待講演】

ICT の新型コロナウイルス感染症対策への貢献について

黒田知宏

国立大学法人京都大学大学院医学研究科（医療情報学） 教授



16:10 【特別講演 2】

災害対応を支援する SNS 情報分析における AI

国立研究開発法人情報通信研究機構データ駆動知能システム研究センター

耐災害 ICT 研究センター応用領域研究室（兼務） 上席研究員 大竹清敬



○ 閉会

16:45 閉会挨拶

門脇直人

国立研究開発法人情報通信研究機構理事



総合司会

木俣 豊

国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット長



○招待講演

**黒田知宏 教授**

国立大学法人京都大学大学院
医学研究科（医療情報学）

1998年3月奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科情報処理学専攻博士後期課程修了。同年4月奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手。
2001年3月フィンランド・オウル大学理学部情報処理科学科客員教授（兼任）。
2001年10月京都大学医学部附属病院講師。
2007年4月大阪大学大学院基礎工学研究科准教授を経て、2013年8月より現職。

ICT の新型コロナウイルス感染症対策への貢献について

新型コロナウイルス感染症の流行は三密対策など新たな経済活動や生活習慣が伴い世の中に大きなインパクトを与えています。医療現場における新型コロナウイルス感染症対策として、非接触、リモート・オンライン化による安全性の確保とともに医療活動の実施におけるリスクコミュニケーションへの対応など幅広い実践事例について紹介します。

○ 特別講演

**尾辻泰一 教授、副機構長**

国立大学法人東北大学 電気
通信研究所、電気通信研究機構

1982年 九州工業大学工学部電子工学科卒、1984年同大学院工学研究科電子工学専攻修士課程了。
1994年 博士（工学）取得（東京工業大学大学院電子システム専攻）。
1984年日本電信電話公社厚木電気通信研究所入所、1992年 NTT LSI 研究所主任研究員、1991年 NTT 未来ねっと研究所主幹研究員、
1999年 九州工業大学情報工学部助教授、2002年同教授を経て、2005年より現職。
2013年より IEEE-EDS（電子デバイスソサエティ）ディスティンギッシュドレクチャー、2015年より日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員を兼務。

電力と情報通信のネットワーク基盤融合による超スマート社会の創出に向けて

近年の頻発する大規模災害では、商用電源の長期的な停電や通信ネットワークの途絶が生じています。一方、カーボンニュートラルで持続可能な地球環境の実現に向けて、電力網では、再生エネルギーを中心とする分散型電源の大量導入が可能なスマートグリッドの研究開発・産業化が加速しています。その中、5G、B5G など超低遅延・高速広帯域無線通信ネットワークによって実現が期待される、耐災害性に優れた自律分散協調型の電力・情報通信融合ネットワークの構想について紹介します。

**大竹清敬 上席研究員**

国立研究開発法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所 データ駆動知能システム研究センター、耐災害 ICT 研究センター応用領域研究室（兼務）

2001年に大学院を修了後、ATR 音声言語コミュニケーション研究所。
2006年より独立行政法人情報通信研究機構。
2011年に内閣府総合科学技術会議行政実務研修員として研修出向。
2012年に情報通信研究機構復帰 現在に至る。

災害対応を支援する SNS 情報分析における AI

住民等が自ら発信する膨大な災害関連情報をリアルタイムに収集・分析することで住民や自治体等における状況把握を容易にするシステムを実現しました。一方で誰もが容易に情報発信できる SNS 上に、事実に基づかない誤った情報が流布され実社会が混乱することも周知の事実です。こうした課題に対応しつつ災害対応を支援するために AI をどのように活用してきたのか、またどういった課題があるのかなどについて紹介します。